紀行　奥武蔵の忘れられた山

虚空蔵山―大平山　埼玉県

藤宗　正彦

奥武蔵有数のビューポイント、関八州見晴台は常に人影の絶えない人気のスポットだ。その麓にある高山不動尊は関東三大不動尊に数えられる由緒ある寺院として多くのハイカーや信者が足を向ける霊場である。

周辺には観光森林レクリエーションに資する奥武蔵グリーンラインという立派な舗装の山岳道路が通じており、一帯はまさに奥武蔵の銀座通りといってもいいようなエリアである。こんなにぎやかな場所に隣接してあるのが虚空蔵山だ。

ハイカーや、車で来た観光客は関八州見晴台や高山不動といった名だたる見所に気を奪われて、つい通り過ごしてしまう不遇の山だが、頂上には虚空蔵菩薩像が祭られ、そのうえ三角点標石をも頂いた、れっきとした静寂のピークである。

大平山は修験道場の拠点とされた黒山三滝の一つ、天狗滝背後の山の中腹に小さな峰をもたげた丘のような小山だが、そこには当地方の修験道に深くかかわった山本坊栄円の墓と修験道開祖役行者の石造座像が祭られてあり、今に山岳密教の聖地を伝え続けている。虚空蔵山も大平山も地形図には山名は記載されていないが、S社の登山地図には明瞭に山名が掲げられてあり、是非とも訪山してみたい意欲にかられる存在である。

東武越生線、あるいはJR八高線越生駅前から川越観光バス「黒山」行きに乗り、終点で下車。「黒山三滝入口、日本観光百選」と大書されたアーチに

虚空蔵山山頂の祠と三角点標石

迎えられ、それをくぐって歩き始める。トイレ近くには「黒山三滝の植物」解説板がある。

それによるとこの周辺は谷が狭く湿度が高いため、暖地性のシダ類の群落が多く見られるという。コモチシダ、ウラジロ、ヘラシダなどすべて県指定天然記念物になっている。特にアオネカズラはその北限の自生地として愛好家には知られる所という。愛好家でなくてもそんな看板を目にすれば、自然と山の斜面などに意識が向いたりする。

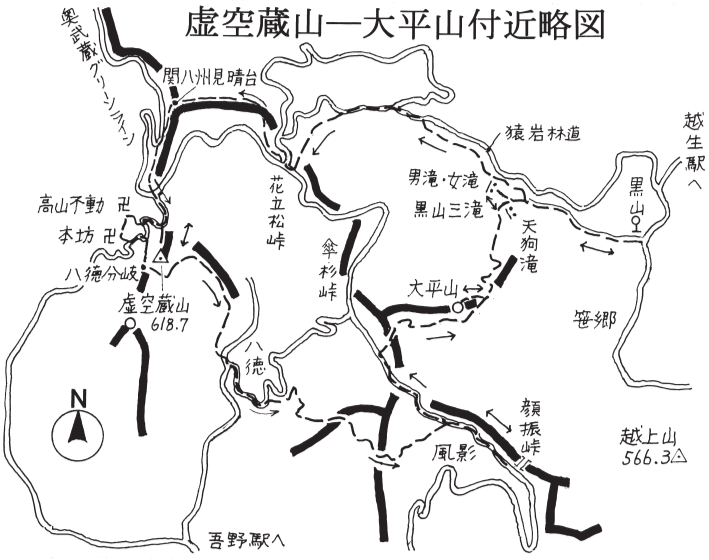
ほどなく右にダートの林道が分岐する。そのまま直進すれば黒山三滝はすぐだが、三滝見参は帰途の宿題として右に入る。道は黒山三滝の上を通過し、道標に導かれて急な斜面に息を弾ませると車道に出た。猿岩林道というらしい。

これを左へしばらく歩くと三滝川源流から引いた水場がある。日照水と呼ばれていると聞く。朝日歌壇に「谷水の里経て街をゆくころは人の文化の滓(おり)多く浮く」(坂元二男)というのがあったが、まこと「滓」が全く浮かない山の水はどこでもうまい。これを頂けるのは山ヤの特権というものだろう。

ここで一息ついてノドを潤し再び山道に入って徐々に視界が開けてくると、上の立派な舗装車道に飛び出た。明るく開けた車道からの眺めはなかなかよさそうだが、展望の楽しみは関八州見晴台までお預けとして、道標に従い花立松(たてまつ)峠に着いた。

右に大曲りして車道を100(メートル)ほど上がって再び細い山道に入る。植林の中を登り、幾つかの小ピークを越えてやっと関八州見晴台のピークに立った。盛りを過ぎたヤマツツジに囲まれた広い台地上には、あずまやと高山不動尊の奥の院のお堂が建っている。

お堂の中をのぞくと、御影石に線刻された不動尊と思われる像が目を引いた。関東の八州、つまりは関東全域が見晴るかせるというこの展望台には、東西南北方向に見える展望図が設置さ



大平山の役行者像

れてあるので、つい時間のたつのを忘れてしまう。

雪を残した富士山の秀麗さに感嘆し、南方にはスカイツリーまで見えるというので、目を凝らしてみたが、これは霞にはばまれて確認できなかった。この見晴台に立つのは、これで三度目だが、いつ来てもやたらと時間を費やしてしまう。

高山不動尊への下山道に入る。いったん車道に出て道標に従い再び山道に入る。しばらく下降して分岐を左にとると花立松峠方面からの車道に下り立つ。そのすぐ先の三差路が高山不動への入り口で不動尊の解説板が立っていた。

狭い車道を下り右に急カーブする左手に広い原っぱがある。何の表示もないが、ここが虚空蔵山入口だ。山の中に踏み込むと薄い踏み跡があり、植林帯を進む。

TVアンテナと古い作業小屋の先で610メートルのコブを一つ越える。次のピークが頂上だが、道は右からぐるりと、う回するようについており、右下から明瞭な踏み跡が合流して頂上へと導かれた。

右手に錫杖らしいものを持った虚空蔵菩薩石像が安置された祠があり、その前に三等三角点標石が埋まっている。ヤマツツジの交じる植林の中で展望は閉ざされているが、神々しい静寂に包まれた霊域である。

高山不動尊への参拝をカットして先を急ぐなら、先ほど合流した道を下ればよいのだが、関東三大不動尊への参詣は欠かすことはできまい。往路を引き返し、車道をひと下りして不動尊最上端に位置する本堂の前に立った。カメラのファインダーに入り切れない壮大な造りだ。

かたわらの解説板などによると「正式には高貴山常楽院といい、白雉五（654）年藤原鎌足の第二子長覚坊上人が東国鎮護のために創建した」ものという。その後文政十三（1830）年、周辺の山火事で焼失したのを江戸時代後期になって再建され、今、目の前にある本堂はその幕末にかけて再建された建物らしい。

次に急な石段を下って下の広場の大イチョウを見上げる。これも県指定天然記念物という。かたわらの解説板によると「またの名を子育てイチョウといい樹齢約800年、樹高37メートル、昔か

ら産後、乳の出の悪い人が祈願すると出がよくなることからこの名があり、信仰されてきた」ものという。

さらに下って、小ぶりな本坊にも参拝し、元の車道に出る。急な道を登り返して「八徳（やっとく）、吾野（あがの）駅」の道標のある山道入り口に着いた。

高山不動尊

虚空蔵山の山裾を進むと「八徳分岐」にさしかかる。ここに「虚空蔵山入口」の道標があるので、ハイカーの多くはここから往復するのであろう。八徳への道に入ってスギ、ヒノキの人工林の中をジグザグに下降を続ける。咲き終えたシャガの群落が目を引く。道が沢に沿うようになると八徳の集落の車道に下り立った。

一服して先の三差路から左の登りの車道に入る。途上「顔振峠（かあぶり）・ユガテ」への道標に従い、再び山道に入った。分岐ではすべて「顔振峠」への道標が示す方向に進み、人家が見えて来ると車道に出た。ここまで来ると近くの顔振峠に立ち寄って行きたくなるのが人情というものであろう。

10分足らずで久しぶりの峠に立って引き返し、車道が峠状になると道標があって「傘杉峠0・7キロメートル、黒山三滝2・2キロメートル」とある。山道に入るとすぐ左へ傘杉峠へのハイキングコースが分岐する。

山腹道を緩やかに下って行く。「坂尻集落を経て黒山バス停」への道を右に分けるとほどなく大きな広場を前にした大平山に着いた。背後のこんもりと盛り上がった丘が大平山だろうが、それよりも、その裾に鎮座する修験道の開祖役行者像が人目を引く。

ほぼ等身大の大きさで、こんなものをよくぞ山深いこんな所まで運び上げたものだと感心してしまう。かたわらの「高祖役ノ行者像由緒の記」という石碑に刻まれた一文を読んでみると「険阻な山道を黒山の村人が総出で運び上げたと伝えられている…」とあったので、なるほどと当時の様子が想像された。

なお尊像の建立は元治二（1865）年のことで平成の世になって尊顔が損傷され、それが再建されたのが近年の平成19年9月になってのことだと記されてあった。背後の小山にも登ってみたが山名表示など何もなく植林と自然林の交じる展望もないありふれた頂上であった。

ここからは山腹道をひたすら下降す

るのみで、麓近くなって左から傘杉峠からの道が合流する。すぐ黒山三滝の観光地に足を踏み入れ、土産物屋の前を通って、まず、男滝女滝にお目にかかる。

思ったより細いスマートな滝で背後の岩壁には不動明王らしい石仏が祭られ修験道の本場であったことをうかがわせる。少し下流の天狗滝も一見して黒山バス停に戻った。

（14年6月14日㈯歩く）

●コースタイム

黒山バス停―15分―林道分岐登山口―40分―水場―30分―花立松峠―30分―関八州見晴台―20分―虚空蔵山登山口―10分―虚空蔵山―10分―登山口―5分―高山不動尊本堂―5分―本坊―10分―八徳・吾野駅入口分岐―5分―八徳分岐―25分―八徳―1時間―顔振峠―20分―黒山三滝分岐―20分―大平山―35分―黒山三滝―20分―黒山バス停

［計6時間］

●費　用

池袋＝越生　東武　720円
越生駅＝黒山　川越観光バス350円

●問い合わせ先

越生観光協会
049―1292―3121
川越観光バス049―3―56―2001

●地　図

越生　正丸峠（2万5千）
東京（20万）
奥武蔵・秩父（昭文社）

どこにでもいて、
どこにもいない。
畦地さんの描く「山男」。

発売中

畦地梅太郎 版画集
「山男」
本体1,500円＋税

近年、再評価が著しい木版画家・畦地梅太郎。
その代表的連作「山男」を中心に、
山岳風景の秀作もふくめ、76点の作品を収録。
コンパクトながら内容は非常に充実した、
畦地ファン待望の新たな版画集、刊行！

伝説的名マタギの
人生にみる山の民の記憶。
著者入魂の代表作を復刻。

2014年9月19日発売

第十四世マタギ
松橋時幸一代記
甲斐崎 圭・著／本体910円＋税

マタギの家系に生まれ、シカリ（マタギの統領）として
知られた故・松橋時幸氏の人生をたどり、
失われつつある伝統的な山の民の暮らしを
後世に伝え、現代への警鐘を鳴らす、
作家・甲斐崎圭の筆が冴えた代表作。

山と溪谷社
〒102-0075 東京都千代田区三番町20番地
http://www.yamakei.co.jp/
カスタマーセンター TEL：03-5275-9064